



港へつながる、未来へつなげるまち

石川商店街（アイキャナルストリート）の魅力とは



石川商店街入り口（元町側交差点より）夜はライトアップも行われる

中区の石川町商店街に行ったことありますか。「どこにあるの?」という方から「よく通るし、何となく知っているよ」という方まで、同商店街の魅力を紹介し、石川町商店街・大島重信理事長にインタビュー。

— 石川商店街はどんな所にあるのでしょうか? —
JR石川町駅南口（元町口）を出て、横浜を代表する観光地元町・山下方面に向かってすぐ、港へ繋がる文楽口の商店街です。周辺には、山手や横浜中華街もあり石川町を中心に1日楽しめるエリアです。

— 商店街の魅力は? —
観光地でありながら、日常的なお店も混在している多種多様なお店が並ぶ商店街です。気軽に入れる下町的な雰囲気があるのも特徴です。

2012年に横浜市内初、国の「地域商店街活性化法」事業計画認定を受けて「安全安心でゆとりのある買い物空間の創出」と誰が楽しめる滞留型商店街」をテーマに、ソフト事業とハード事業に取り組みました。— それほどのような取り組みでしょうか? —
まずハード整備として、「パリアフリー化街路整備」を2013年に完成して、次の5つを実施しました。

- ①「パリアフリー化の歩道整備」の電柱移設による歩行者空間の拡充
- ②「民地・官地一体型舗装」の民地セッティング部分を合わせた歩道の統一整備
- ③「レストスペースの新設」の河岸広場の整備や街内ベンチの設置
- ④防犯のLED街路灯と防犯カメラ4機の設置
- ⑤石川商店街まちづくりルールをつくり、街内の維持管理の推進

また、ソフト事業として、新しい環境整備に合わせて「アイキャナルストリート」の愛称と商店街ロゴマークをそれぞれ募集して決定。同時に石川町の歴史について紹介することができました（明治大学中川ゼミ連携）。イベントでも商店街に滞留できるように工夫しています。

— 主なイベントは? —
2月末のスプリングセール、4月のヨコハマ大道芸（イセザキモール、MM地区合同開催）、5月末の横浜開港記念イベント、9月末のオクタムセール、10月31日のハロウィンイベント、12月のウィンターイルミネーション&クリスマスイベントです。

— 街の変化として、JR石川町駅南口（元町口）のバリアフリー化駅舎工事2019年3月に上下線エレベーターが完成しましたが、これからの石川町の未来予想図はありますか? —

現在、石川町に接する運河に棧橋を中心とした親水施設を設置する取り組みが進んでいて、近い将来に棧橋が運用されまわす。横浜の中心市街地を囲むように流れる大岡川・中村川・堀川は、かつて横浜の発展を支えた生活運河として活躍していましたが、現在ではあまり人目に触れることも無い存在となっていました。

私たちは、この横浜の財産である運河に着目し、商店街愛称に「i-canal street（アイキャナルストリート）」を選び、運河を活用することで石川町の発展だけに留まらず、横浜の中心市街地全域を運河水上交通で繋げることができまわす。写真も掲載されています。

石川町では、昭和の頃まで千葉県の富津と東京湾を船で渡る定期船が毎日運航していました。富津との交流が復活できる日が来るのも夢ではありません。

— 具体的に? —
大岡川では既に日ノ出町エリアの横浜日ノ出橋と桜橋を拠点に運河の活用が盛んに行われています。将来、石川町の

「よこはま運河チャレンジ」では、石川町仮設棧橋を設置してクルーズ船が運行された（写真は2020年11月）

商店街で探してみよう!

横浜が舞台になったジブリ映画『コクリコ坂から』に登場する国際信号旗*が石川商店街の中にも掲げられています!
I・S・H・I・K・A・W・Aと計8カ所にアルファベット文字を表す旗があります。
*無線通信が発明される以前、海上で船同士が通信するため掲げられた旗のこと

ヒント マストに似た場所で、高い所に掲げられていますよ。

石川町の由来って?

「いしかわむら」の地名が古文書に初めて現れたのは鎌倉時代の1233年。その古文書には「武蔵国久良郡平子郷石河村」と記されています。石河村、石川村の表記の仕方は異なるものの江戸時代のずっと以前には既に「石川村」が存在していました。

明治6年（1873年）に由緒ある「石川」の地名が復活して「石川町」を起立、明治22年（1889年）に市町村制施行により横浜市に編入して今に至ります。ちなみに小泉（ラフカディオ・ハーン）が、かつてこの地を「The Street of the Stony River（石の多い川の通り）」と英語で直訳しています。

ダンス&ヨガでまちに笑顔を

スタジオ ブーサンク

安室奈美恵や三浦大知など有名アーティストのライブを鑑賞し、第一線で活躍バックダンサーから振り付け・演出まで、プロダンサーとして多彩な才能を駆使する。ダンスなどのエンタメと福祉を結ぶボランティア団体やギャラリースタジオも主宰する。

前畑 冬美さん(36歳)
鎌倉市出身。高校から独学でダンスを始める。ダンスなどのエンタメと福祉を結ぶボランティア団体やギャラリースタジオも主宰する。

「困ったことがあったらすぐに助けてくれて、皆さん応援してくれた。石川町商店街だったから、今まで楽しく続けられたと思うんです。」

今ではすっかり商店街に溶け込み、石川町の公式ホームページやダンス制作も担当。街の人たちとのふれあいを誰よりも楽しんでいる。商店街を盛り上げてくれる頼もしい存在だ。

元気の源は「本物のはちみつ」

天狗屋養蜂店 横浜店

「国産天然の生はちみつと全然違う」を扱っています。自然と皆さん驚かれます」と取したはちみつ、漆黒のそばはちみつなど他にはない品揃え。「本物」の味を求め、遠方から来るファンも多いという。

「庶民的でアットホーム。人の繋がりが強い」と商店街の魅力語る。奈良岡店長の明るい人柄と、はちみつパワーで、元気をもらえらるお店だ。

奈良岡 由貴子さん(62歳)
横浜店のオープン2年後に店長になってから早16年。1番好きなのはちみつは、特選レンゲ。今ハマっているのは「編み物」。

石川商店街で 名物店主 見つけた!

思い出写真に残して

パレットプラザ 横浜元町店

「国産天然の生はちみつと全然違う」を扱っています。自然と皆さん驚かれます」と取したはちみつ、漆黒のそばはちみつなど他にはない品揃え。「本物」の味を求め、遠方から来るファンも多いという。

増山 宏実さん(52歳)
大阪生まれ。中学から横浜へ。趣味は旅行、サッカーやラグビーなどのスポーツ観戦、写真。伊勢佐木町1丁目店の店長も務める。

「思い出に残したい」と転職。同店の店長に着任した年に、東日本大震災が起きた。現地に訪れ、残った写真が被災者の心の拠り所になっている様子をみて、思い出を形に残しておくことの大切さを改めて実感。以来店頭でも「写真を残そう、贈ろう、飾ろう」と伝え続けている。

「石川商店街は昔ながらの人の温かさがあった。フィルムのような感じが」とほほ笑んだ。

「スマホで気軽に写真が撮れる時代だからこそ、大切な写真はぜひ形に残してもらえらう」と増山さん。

最近ではフォトブックのほか、ビデオをDVDにするサービスも人気で、故人や幼い頃の我が子を久々に見ることができたと言われているという。